

SUBARUで行きたくなるアウトドア



初めての Fishing!

良く晴れた日にのんびりと堤防で釣り糸を垂れている釣り人の姿を見かけると、長閑な心持ちになります。しかし、実際にやってみようとなると、道具や餌など揃えるべきものがあるし、糸やハリの扱い方もさることながら、海や天気に関する知識も必要です。このようにアウトドアアクティビティの中でも意外にハードルが高いのがフィッシング。そこで今回は、初めて釣りにチャレンジしようと思っている方向けに、初歩の釣り情報をお届けします。後半では編集スタッフが初めての釣りに挑戦した様子をレポートします。



フィールド別楽しみ方 初心者に適した場所はどこ？

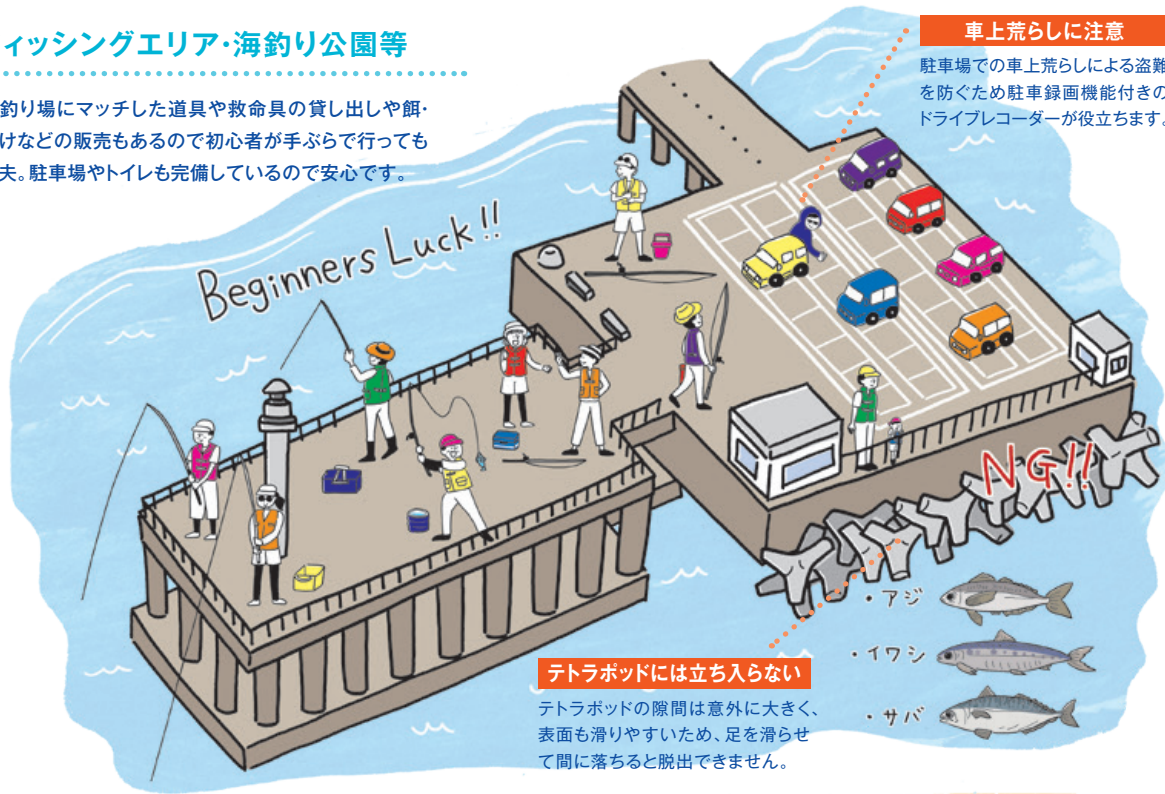
釣り場別面白さ、難易度、釣った魚をどうするか？

海釣り

食べることができる魚種が多く、出会い頭で釣れることもあるので初心者におすすめです。四季によって釣れる魚種が変わります。

フィッシングエリア・海釣り公園等

その釣り場にマッチした道具や救命具の貸し出しや餌・仕掛けなどの販売もあるので初心者が手ぶらで行っても大丈夫。駐車場やトイレも完備しているので安心です。



車上荒らしに注意

駐車場での上荒らしによる盗難を防ぐため駐車録画機能付きのドライブレコーダーが役立ちます。

テトラポッドには立ち入らない

テトラポッドの間隙は意外に大きく、表面も滑りやすいため、足を滑らせて間に落ちると脱出できません。



ビーチ

海水浴シーズンが終わり10月頃になると魚はずいぶん回遊しています。ビーチからでも30mほど投げれば釣れます。

釣った魚

持ち帰って食べるのがおすすめクーラーボックスは必須アイテム。

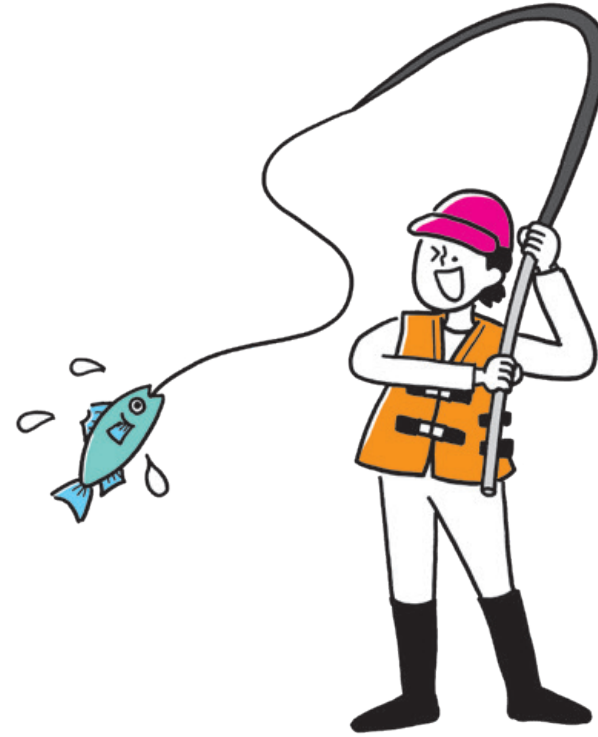
時期

堤防や磯の釣りは3月、4月ぐらいの桜が散る頃から。水温が上昇する夏の日中は不適。それほど水温に動きのない春、秋はほぼ終日大丈夫。海の釣りは10月、11月がベストシーズン。



釣りをしている人の周囲を歩くときには、竿先を見る

キャスト(餌やルアーなどの仕掛けを投入すること)しようとしている人の周辺を歩いているとハリが引っかかってしまうことがあります。糸を垂れているときは大丈夫ですが、キャスト時にこのような事故が発生するので、釣り場を歩く際は、釣り人の竿先に注意しましょう。また、自分が投げるときも、周囲に人がいないか確認し、人がいるようなら一呼吸待ちましょう。



何が楽しいのか？ フィッシングの魅力とは

一日中トライして一尾も釣れないこともあるのがフィッシング。釣れたら楽しいのは分かるけれど、釣れなかったら楽しいものではないのか？
そこで、釣り人でありフィッシングのダイブを展開するグロブライドの吉川隆さんに、そもそもフィッシングは何が楽しいのか？フィッシングとはどういうスポーツなのかを聞いてみました。

フィッシングの楽しさ①

ゲーム性・生き物を相手に
さまざまな工夫を重ねる面白さ

「釣果はその日の天気、気温、水温によってかなり左右されます。その条件は時々刻々変わっていきます。例えば風が吹いて気温が下がったり、陽が高くなると水温が上がり、潮がよってきます。また、魚の居場所も変わります。また、風が強ければ道具の扱いが難しくなります。30分刻みぐらいで自然環境の変化に応じて仕掛けや戦略を変えていかないといけない。生き物や気象条件と相対して、どんな工夫を重ねていくアウトドアスポーツレジャーであること。これが釣りの一番の魅力です」

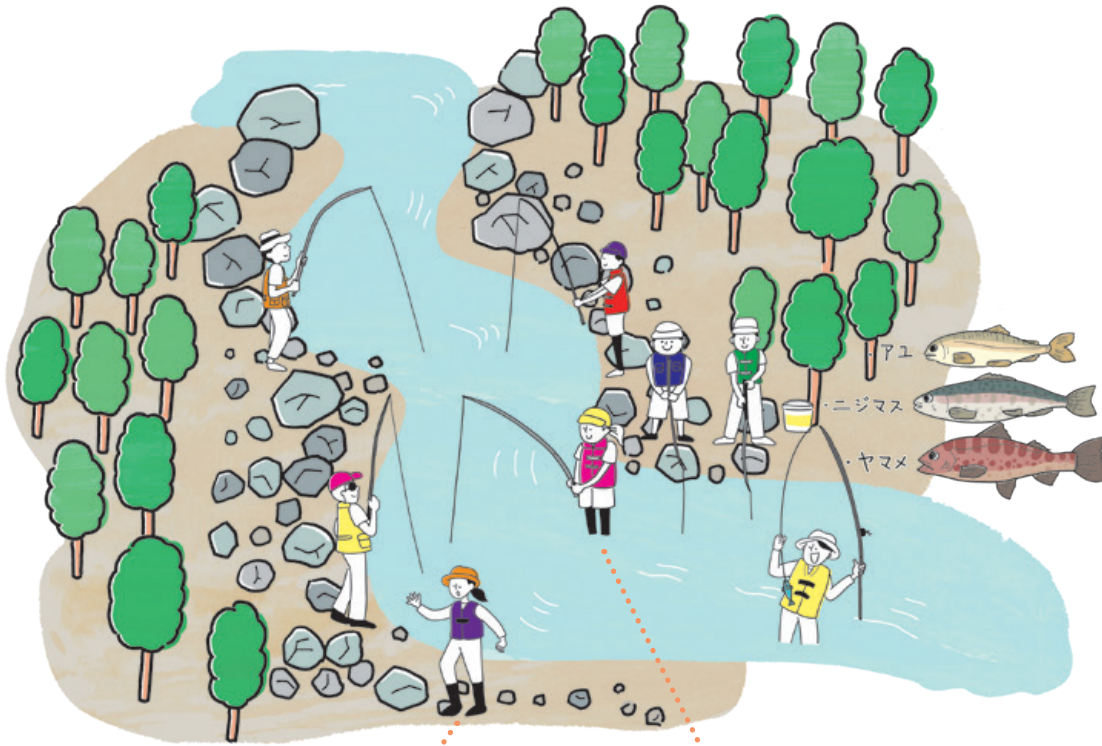
フィッシングの楽しさ②

偶然性・誰でも釣れる喜びを
味わえる

「自然を相手にしているので、偶然性に左右されるところが多いのも、釣りの魅力です。特に海釣りではビギナーズラックが起りやすい。ゴルフやスキーと違って、練習しなくても、道具の扱い方が下手でも、潮が良ければ釣れるときには釣れる。その一方で、潮に恵まれなければベテランの方が一尾も釣れずに終わることもあります。初めての人と経験30年のベテランとで、技術に差があっても意外と釣果は変わらないということも起きる。そこも面白いところですよ」

淡水域 (管理釣り場)

クルマでのアクセスは簡単で道具もレンタルできますが、淡水域の管理釣り場は海釣り比べて意外と苦戦するケースもあります。魚は学習するので、人の気配を感じると警戒して、餌を食べなくなります。管理釣り場では、釣った魚をどうするかについてルールがあるのでそれに従いましょう。



海も湖も川も足元が滑りやすいので走らない

歩きづらい川原だけでなく一見すると歩きやすそうに見える堤防の上も、濡れて滑りやすくなっています。できればラジアルソールの滑りにくい長靴を履いて、歩くようにしましょう。また、釣り場では走ったり大きな音をたてたりと魚が警戒するようなことは慎みましょう。

初心者向けの詳しい情報はこちらから。
「DAIWA初心者のための釣り入門」



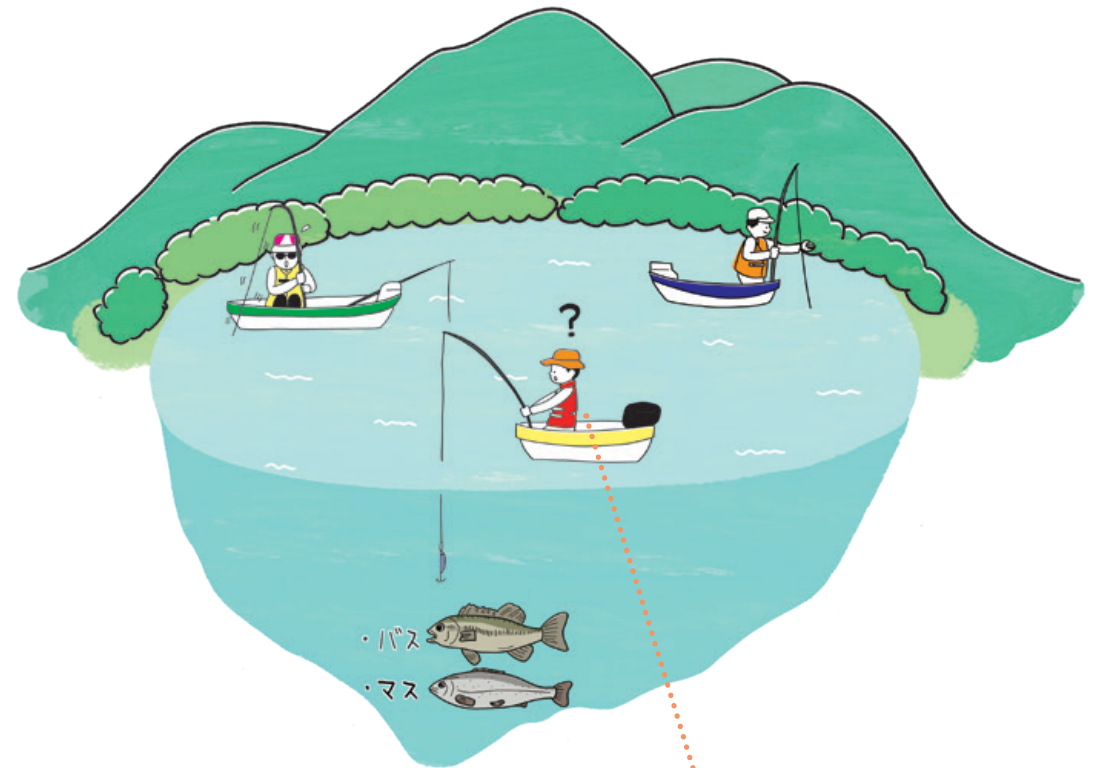
日焼けに注意

釣りをしているときは、上からよりも下からの反射光で腕や首、顔の下面が焼けてしまいます。普段とは異なる箇所にもしっかり日焼け止めを塗りましょう。



淡水域 (湖・溪流・川)

魚の習性を知った上で戦略を立て、それに基づいて実践するゲーム性が一番の魅力ですが、その分海釣りよりも淡水域は上級者向けとも言えます。ねらう人気魚種はマスかバスですが、魚のいる場所や水深、使うルアーなどは季節や時間帯によって変わります。狙ったポイントへのアプローチも、魚の捕食ルートをイメージしながら自分でシミュレーションして組み立てる必要があります。



釣った魚

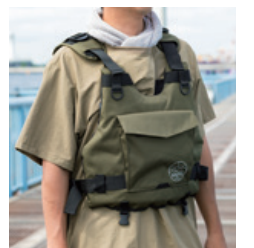
リリースする際は、リリースの仕方を学んでからにしましょう。慣れない人はわしづかみしてしまうため、魚はとても弱ってしまいます。魚の体温は水温と同じ程度。人間の体温で触れると火傷したようになり、皮膚が変色したり病気になったりします。手で触れずベンチなどでハリを外すテクニックが必要です。

時期

季節はマスであれば3月～5月半ばぐらいまでがハイシーズン。夏場は湖の水温が上がりやすいので難しくなります。淡水域は春・秋がおすすめ。ただ淡水域は管理釣り場を除いて10月～2月末まで禁漁期間になります。

救命具を必ず身に着けよう

特に親子連れの場合、子どもは親が着けていないと着けないので親も必ず着用しましょう。深い場所には行かないし夏は暑いので救命具を着けないという人もいますが、水辺の事故はまったく予期しないことで発生します。川で怖いのは、魚が跳ねた方へ移動しようとして、深さが突然深くなって溺れてしまうとか、足を踏み入れた瞬間、足場の石が崩れて自分がはまってしまうなど、海以上に変化が大きいことです。



Profile
吉川 隆

グローブライド株式会社
広報室

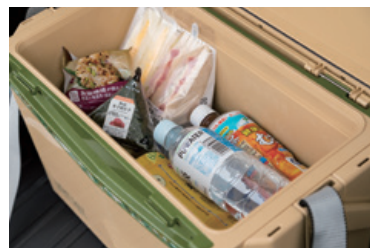
フィッシングのダイワで親まれるグローブライド入社後、さまざまな釣りを国内外で体験。およそ50年取り組む「D.Y.F.C. タイフヤングフィッシングクラブ」を通して、自然体験による子どもの成長を見守っている。

初歩の道具選び

初めての釣りで最低限揃えておくべき道具・ウエア等+あったら便利なもの



DAIWAクールラインα GU 1500X LSベージュ
容量15L 20,600円 (メーカー希望本体価格)



朝食2~3人分なら氷と一緒に余裕で収納できる。

偏光グラス

水面のキラつきをカットすることができます。特に川、湖では偏光グラスを着用することで水面を見ながら歩きやすくなります。海の場合も魚がどこに寄ってきているか見ることができます。水面は強い日差しを反射して、目にも負担が大きいため、目を保護するためにも偏光グラスがあると安心です。



長靴

靴は履きなれた歩きやすいもので良いですが、できれば滑りにくく、防水性を備えたブーツタイプのものを用意しましょう。

レインウエア

レインウエアの上下があると重宝します。海は風で飛沫が舞っている、スウェットやセーターなどは濡れている日でも湿ってしまいます。また、魚を取り込むときに、慣れないと抱え込んでしまうため、衣類に汚れや臭いがついてしまいます。レインウエアなど、汚れが気にならず水洗いできるものがベストです。



上：プライヤー、下：フォーセップ
先端はハリを外しやすいように曲がっている。

プライヤー／フォーセップ

釣った魚からハリを外すための道具として専用プライヤーがおすすめ(専用のものがなければラジオペンチで代用可)です。また、釣り糸を切るためにはハサミが必要です。医療の鉗子(かんし)のように固定できる「フォーセップ」という専用グッズに「糸を切る」ハサミ機能付きもあり、ハリ外しや糸切りの2役があつて便利です。先が曲がっているものは、魚の咽喉の奥に刺さったハリを外す際に役立ちます。



帽子

5~9月の釣り場は非常に日差しが強くなります。熱中症などを防ぐためにも帽子は必須です。水分補給も忘れずに。

タオル/手ぬぐい

手や汗を拭くためのタオルの他に、釣った魚に触れる(取り込み、ハリ外し)時に滑るので、もう1本タオルがあると便利です。

▶ 釣った魚について調べる際には、スマートフォンのカメラで撮った魚の種類がわかるGoogle Lensなどのアプリを使うと便利です。

クルマで釣りに行く際の注意点、あると便利なもの



カーゴトレーマット・トレーマット

特に海水は想像以上に臭いにつきやすいので、これを防ぐため、キャビンやトランクルームには洗えるカーゴトレーマットを敷くと良いでしょう。なければブルーシートを代用し、クーラーやフットウエア、レインスーツなど海水に濡れたモノを車内に持ち込んでも、車内に臭いをつけない工夫をしておくとう良いでしょう。



クロストレック用カーゴトレーマット
21,340円(消費税10%込)

カーゴフロアからリヤシートバックまでをカバーする樹脂製マット。マジックテープ取り付けなので、取り外しての水洗いもできます。



クロストレック用トレーマット
22,440円(5席分)(消費税10%込)

汚れを水で洗い流せる樹脂製トレーマット。足を置く表面はヘキサゴン形状とエッジ処理により、高いグリップ力を発揮。

ドライブレコーダー

釣りでは長時間クルマから離れるケースが多いので万が一の車上荒らしに備えて、クルマに貴重品は置かないようにしましょう。また、盗難事故を防ぐために駐車時録画機能付きのドライブレコーダーが効果的です。



SAA純正ドライブレコーダー
JVCケンウッド
駐車録画機能
(感知数秒後から30秒間)

SAA純正2カメラドライブレコーダー
コシダテック
録画時間選択可能
(衝撃感知に関係なく録画できます)

適応車種は販売店にお問い合わせください

身に付けておくと釣りがさらに楽しくなる技・知恵

釣りに適した日/時間帯

大潮となる新月・満月の日とその間の小潮の日は、潮が大きく動き水位の高低差も大きくなります。一日の中でも干潮満潮の前後1時間は潮が止まるため、海に暮らす魚の活性が下がり、餌を捕食しません。その時間帯は避け、自分も休憩するなどメリハリを付けると良いでしょう。間詰め時と言って、太陽と水平線が間合いを詰めていく夕方の時間帯、同様に水平線から日が昇り始める時間帯は、釣りのプライムタイムです。

ロッド(竿)の持ち方

ロッドは利き手で持ち、リールのハンドルはもう一方の手で巻くのが基本です。ロッドに対して下に付けるスピニングリールを使うタックル(釣り具)の持ち方は、リールをロッドにセットした部分を中指と薬指で挟むようにリールフット(リールの脚部)を握ります。ロッドエンド(竿尻)を持つ釣り人も多いですが、リールが最も重いため、タックルの重心はリールをロッドにセットした部分になります。この基本ができていれば、大物とのファイト(やり取り)でも手からタックルが抜けることはなく、油断してタックルを落水させる心配もありません。手の小さい人は薬指と小指の間でリールフットを挟んで握ります。キャストの時は、人差し指が糸巻き部分に添えられる位置で握りましょう。



手の小さい人は左写真のように薬指と小指の間でリールフットを挟むと良い。



氷水

海釣り釣った魚を持ち帰って食べるのならクーラーに氷をいれて海水を加える「氷水」を作りましょう。氷水の中に魚を入れれば、芯まで冷える「氷締め」ができます。氷だけでは魚の表面だけが冷える魚は芯まで冷えません。真水は魚が傷んでしまうので厳禁。釣ったらすぐに氷水を入れたクーラーに入れておき、帰り際に水を抜いて、クーラーの底と魚を覆うように上から氷を入れ、しっかり冷やすようにすると良い状態で持ち帰ることができます。





虫が苦手なスタッフは青イソメに悪戦苦闘……。虫が苦手な方は擬似餌もおすすめです。



初心者スタッフのヒットにどよめく。逃した魚は大きかった……。かも。



道具を使ってハリを外します。まだ小さな魚であれば、海にリリース。



釣りを満喫したスタッフ一同。

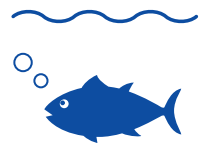


横浜市大黒海づり施設
 神奈川県横浜市鶴見区大黒ふ頭20番地先
 定休日:12月31日~1月1日、施設点検日(奇数月第3火曜日)
 釣り料金:大人900円/中学生450円/小学生300円

桟橋タイプの釣り場で、柵があるので初心者も安心です。ライフジャケットも無料で貸し出しています。

燃える挑戦心！ 釣りの女神は誰に微笑むか

カートピア編集スタッフの体験レポート



釣り初心者のカートピア編集スタッフが、海釣り施設での釣りに挑戦してみました。

今回は釣り初心者MとYの2名が、経験者Kにサポートしてもらいながら、釣りに初挑戦！朝6時一同は神奈川県横浜市の大黒海づり施設へ。この施設では釣具がレンタルでき、売店では仕掛けや餌などの基本的な一式をすべて揃えることができます。他にも、ネットで釣具をレンタルできる「キャストイング」などのサービスを活用するのも良いでしょう。

装備を揃えていざ、釣り場へ！場所を決めたら、経験者に教えてもらいながら仕掛けをつけます。今回は、青イソメ(青虫)という生き餌を使う方法と、アミエビを撒いて魚を誘ぎ寄せる「サビキ」の2種類。どちらもシンプルで初心者向きです。

準備ができたなら釣りがスタート！先端の針に生き餌をつけた竿は、竿を振って勢いよく海に向かって投げる、投げ釣り。遠くに投げてみることに。サビキは投げずに海に落としたら、時々竿を上下に振り仕掛けについた小さな網から餌を海中に撒きます。あとはじっと待つだけ。時々リールを巻いたり、竿を揺らしてみたりして魚を待ちます。まさに釣りは忍耐。お喋りをしながら竿を見ていると、経験者Kの竿にカサゴがヒット！自分も釣れるかも、と期待が高まります。しばらくして、初心者MとYにもヒットの兆しが。魚が餌を食べて竿が動く感覚が手に伝わって、急いでリールを巻きます。が、魚に気づかずに、釣りを上げてあげることができませんでした。悔しさはあるものの、次こそは！と挑戦心に火が付きまします。

しかし、お昼頃になりピークを終えたのか魚が食いつく様子もありません。周りの人も釣れている様子はなく、経験者であつても、初心者でも釣れない時は釣れない釣りの厳しさがよくわかります。それでもしばらく粘って見たものの、陽射しも強くなってきたため、やむなく撤収することに。今回の釣果はあまり良いものではありませんでしたが、これほど一度釣れたらやみつきになってしまいそう。難しいけれど、挑戦しがいののある奥深い釣りの魅力を実感することができました。